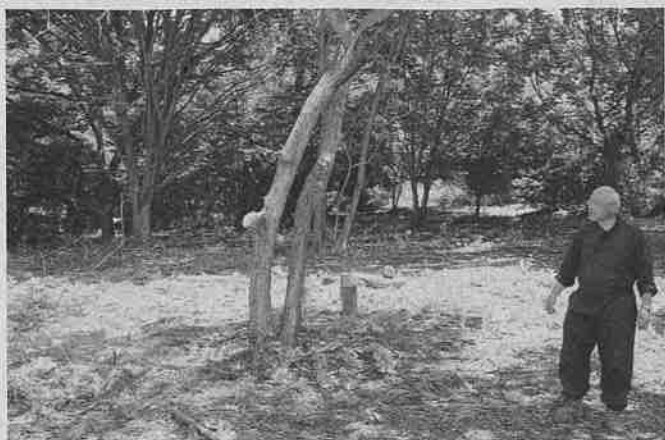


長野県上田市の荒廃地を再生し、テーマパーク「どんぐり王国」を建設する構想が進んでいる。中心メンバーは長野県旅館ホテル組合副会長の稲池憲一さんで、開業に向けて8月にも株式会社を設立する方針だ。地元有志などを巻き込みながら2022年4月の開業を目指す。

「親子3世代が長い時間を過ごせる施設にした」と。どんぐり王国の建設を目指す稲池さんは、思いを語る。王国の予定地は上田駅から車で20分ほどの前山寺の近くに位置する。稲池さんの土地や借地を含め、現在の敷地は1万平方メートルほど。まだ建屋などはなく、建設はこれから本格化する。どんぐり王国構想のきっかけは、上田市に在住する稲池さんが市内に「子供から祖父母まで一緒に遊べる場所が少ない」と思ったこと。どんぐり王国のようなテーマパークを作れば地域の活性化にもつながるとし、建設に向けて仲間探しな

3世代楽しめる施設構想

(長野県上田市「どんぐり王国」)



どんぐり王国の建設に向け、稲池さんらは木の伐採など荒廃地の整備を進める

まちづくり 人づくり

稲池さんが構想を知人などに話したところ、今では10人弱の有志が集まった。地元企業の経営者や大学関係者などメンバーは様々。休日に集まりながら、それぞれがもつ人脈やノウハウなどを生かしつつ建設に向けて協議を進める。今春からは木の伐採や石拾いなど土地の整備も始めた。開発した一部の土地では畑も整備した。王国は将来的に約4倍

の4万平方メートルほどにまで拡大する計画だ。広大な敷地には多様な施設を設ける。入場するパスポート発行の「入国管理局」のほかレストラン、温泉、ドッグラン、宿泊所のツリーハウス、釣り堀などを計画している。

王国では農業にも力を入れるため、畑も拡張していく。野菜に加え、リンゴやイチゴなど果物も育てる。畑では、子供たちが収穫体験をできるようにもする。野菜や果物

荒廃地を再生、温泉・農場に

は上田市内での外販も検討していく。なるべく無農薬を目指し、新鮮な地元野菜などを地域に届けられるような仕組み作りにもしたいという。王国の事業運営の効率化に向け、今月下旬には株式会社「どんぐり王国」を設立する。

王国の名前の由来となったどんぐりは、施設内の通貨にする計画だ。建設予定地は、過去に上田市で盛んだった養蚕業の名残で荒廃した桑畑が中心。稲池さんは「王国にきた人が持ってきたアナヤナラのどんぐりを育てれば、里山が再生する」と語る。

王国の開業を予定する22年春の長野県は、新型コロナウイルスの影響で延期となった善光寺(長野市)の御開帳をはじめ諏訪大社の御柱祭など大型イベントの開催が相次ぐ。過去になく長野県が盛り上がる年で、タイミング良く観光客を呼び込むことができれば最高のスタートとなりそうだ。

(下村凜太郎)

果ごもりの逸品

ワイナリーのデリ

カーブドッチ (新潟市)

新潟を代表するワイナリーのカーブドッチ(新潟市)。新型コロナウイルスの影響で来場客が減る中、5月にホームページ上に立ち上げたのが「カーブドッチデリ」だ。運営する工房やレストランでつくるソーセージ、テリーヌ、ブイヤベースなどを用意し、自宅で気軽にレストラン気分が味わえる。カーブドッチは施設内で宿泊



気軽にレストラン気分

注文は「通販でお取り寄せ」と「新潟市内店舗(4カ所)でお受け取り」の2種類。「お受け取り」の商品はパンがメインとなっている。送料は全国一律650円。

施設やレストランも運営。新潟市内や東京都内にも複数のレストランを展開しており、ワイン以外が全体の売り上げの8割近くを占める。新型コロナウイルスの影響でワイナリーやレストランの来客が減り、「どうやってカーブドッチの楽しみ方を届けようかと考えた」(掛川史人取締役、末、行き着いたのが料理の通信販売だった。

ハムやソーセージのほかパスタソース、コンフィ、煮込み料理、ヨーグルト、ジャムなども用意。季節によってメニューを変える詰め合わせ(セット)もある。もちろんワインも購入可能だ。特に人気なのが「サブジャガテリーヌ」(540円、税込み)と「にいがた漁師のブイヤベース」(1700円、同)で、注文した人の7割近くが選ぶという。自宅で楽しむ以外に贈答用として購入する例も多

い。秋には新しいメニューも追加する予定。また、今後は5〜6品からなるコース料理の商品開発も視野に入れているという。

季節によって詰め合わせの商品を変えるセットも用意している

新潟支局 0255-2222-75417
長野支局 0266-2222-1111
松本支局 0266-3336-33007

信越